

ツネログ #15 2025年 11月号

皆さん、こんにちは。

このたび臨時評議員会での信任決議において次期“会長予定者”として認めていただきました。皆さんからの期待に応えるべく、これからもしっかりと取り組んでいく所存です。

1期目では47FA訪問会議で全ての都道府県に足を運ぶことができました。フェイス・トゥー・フェイスでコミュニケーションを図ることによってそれぞれの実情を把握できたのではないかと考えています。これは日本サッカーの全体像を俯瞰的に見ることに活きています。引き続きコミュニケーションを密にするとともに、実情を踏まえたくうえで課題解決を含めた次のステップに進んでいきたいと思っています。

1期目の残り期間においてもJFAが掲げる理念の具現、そして自身の掲げた目指すべき組織、環境に近づけられるよう努めます。どうぞよろしくお願いいたします。

日本サッカー界にとって大きなトピックがありました。

SAMURAI BLUE(日本代表)が10月の麒麟チャレンジカップ2025でブラジル代表に対して勝利を収めたことです。14度目の対戦で初勝利となりました。

私も現役時代にブラジルと戦いましたが、相手が途中からギアを上げてくると、スピード、判断力、質ともにゲーム自体のレベルが上がるのでついていくのが難しくなります。2006FIFAワールドカップドイツでのブラジル戦がまさにそうでした。

今の日本代表はたとえブラジルがギアを上げてても、対等に戦っていけるだけの実力があります。勇気を持ってハイプレスでボールを奪ってそのまま攻め立てていくこともできていましたし、あのブラジルが焦っていたほど。これまでチームとして積み上げてきたものがカタチになってきています。親善試合とはいえ歴史的な日になりましたし、自信

を得ることができたのは何よりの収穫です。来年のFIFAワールドカップ26に向けてこれからはしっかりとサポートしていきたいと思います。

チリで開催されたFIFA U-20ワールドカップはラウンド16での敗退となりました。日本はフランスに対して前半から決定的なチャンスを多く作るなど、上回る部分もたくさんありました。それでも延長後半の最終盤に失点を許してしまい、涙をのむことになりました。そこから先の数試合を経験できるかどうかで、選手たちの成長も違ってくると思えば、グループステージから良い戦いを続けていただけない終わりの方になってしまったのは残念でした。

10月はなでしこジャパン(日本女子代表)、フットサル男子、ビーチサッカーでも国際親善試合があり、良い経験を積むことができました。また、モロッコでのFIFA U-17女子ワールドカップを視察した際、選手たちに敢えて「もっともっとギラついてほしい」とハッパを掛けてきました。女子サッカーの拡大を図っていくには、若い選手たちがどんどんレベルアップして羽ばたいていく必要がありますから。どのカテゴリーにおいても“実りの秋”となっていくことを期待しています。

公益財団法人日本サッカー協会 会長

宮市恒靖



会長の活動報告

2025年9月19日～10月7日(抜粋版)

9/19(金)

「新スタジアムの建設を求める署名活動」に参加(岡山)



岡山県の伊原木隆太知事、岡山市の大森雅夫市長を表敬訪問し、その後、岡山駅前で行われた新スタジアムの整備を推進する会の署名活動に参加しました。署名は期間中に50万筆を超えたとのこと。岡山の誇りとなるようなスタジアムが実現することを願っています。

9/27(土)

御堂筋みちの未来体験EXPO「With御堂筋」(大阪)



大阪の中心を南北に走る幹線道路の「御堂筋」を活用した万博サテライトイベントに協力出演しました。現在、御堂筋の車線を減らして公園にする計画がありますが、そこに小さいフットサルコートを作れないかなど、夢のある話もさせていただきました。

9/21(日)

関東サッカーリーグ1部 第17節 南葛SC vs. 流通経済大学ドラゴンズ龍ヶ崎 視察 (奥戸総合スポーツセンター陸上競技場)



葛飾区の奥戸総合スポーツセンター陸上競技場で開催された関東サッカーリーグ1部の試合を視察しました。日曜18時キックオフの有料試合でしたが、1,813人の入場者数が集まっていて、良い雰囲気での日本のサッカーの広がりを感じることができました。

9/30(火)

職員トップセミナー(財務省)



事務次官を含めた財務省の幹部職員の方々に向けて日本サッカーの現在・未来についての講演の機会をいただきました。日本でサッカーをもっと大きな存在にするために関係省庁とも積極的に協力関係を築いていけたらと思います。

9/22(月)

Jヴィレッジ取締役会(オンライン)

9/24(水)

WEリーグ社員総会(JFAハウス)

9/25(木)

FAマーケティングセミナー(JFAハウス)



自主財源については多くのサッカー協会(FA)で課題になっていると認識しています。こういったセミナーを開催していくことで、皆さんの情報交換やノウハウの共有につながっていくと思いますし、そこから各FAの新たなチャレンジにつながるような変化が生まれることを期待しています。

10/3(金)

第79回国民スポーツ大会 視察・レセプション(滋賀)



国民スポーツ大会は試合登録人数が少なく、最大で5連戦となるため、今大会から再交代制度が導入されました。来年は青森での開催となりますが、競技の価値をさらに上げていくためにはどうすればいいのかを継続して考えていきたいと思っています。

10/4(土)

国際親善試合 ビーチサッカー日本代表 vs. ビーチサッカーポルトガル代表(西原きらきらビーチ)



私が視察した1戦目は残念ながら4-7で敗れましたが、2戦目は4-1で勝利。ビーチサッカーやフットサル日本代表の強化もさらに進めていきます。ヴィッセル神戸でともにプレーした森岡亮太選手がビーチサッカー日本代表として活躍する姿を見て、フットボールの新たな可能性を感じました。

9/25(木)

Jリーグ理事会(Jリーグ)

10/7(火)

9地域代表者会議、JFA理事会(JFAハウス)

理事会トピックス



2025年度第11回理事会が10月7日(火)、JFAハウスおよびWeb会議システムで開催されました。
また、第12回理事会が同17日(金)に書面で、第13回理事会が同28日(火)にJFAハウスおよびWeb会議システムで開催されました。
各理事会の詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式Webサイトをご参照ください。

【第11回】決議事項

2025年度スポーツ団体ガバナンスコード 自己説明・公表資料を承認

スポーツ庁が義務付けている「スポーツ団体ガバナンスコード」の年1回の自己説明・公表に関する資料を承認しました。

釜本邦茂氏お別れの会を開催

8月10日に逝去された釜本邦茂氏のお別れの会を、11月22日11時から帝国ホテル東京(東京都千代田区)で執り行うことになりました。一般の献花については、10月10日および同14日の麒麟チャレンジカップ2025の試合会場に献花台を設置します。

【第11回】報告事項

FIFA U-20ワールドカップ2027の開催地が決定

第33回FIFAカOUNシル会議が10月2日にスイスのチューリヒで開催され、FIFA U-20ワールドカップ2027™をアゼルバイジャンとウズベキスタンが共同開催することが決定しました。

【第12回】決議事項

技術委員長に山本昌邦氏を選任

山本昌邦氏が10月17日付で技術委員長に就任することになりました。以降は、技術委員長兼ナショナルチームダイレクターとして業務にあたります。

【第13回】決議事項

倫理・コンプライアンスタスクフォース(仮称)を設置

昨今、コンプライアンスに関する事案が発生していることを受け、未然に防ぐための仕組みづくりを進めるため、新たにタスクフォースを設けます。JFA理事と関連する3つの委員会を中心に構成され、宮本恒靖会長が座長、西本強理事(コンプライアンス委員長)が副座長を務めます。倫理やコンプライアンスを大切にする組織風土を醸成し、よりよい体制を構築することを目指して、今後理事会に改善策や再発防止の提案を行っていきます。

臨時評議員会トピックス

2025年度臨時評議員会が10月26日(日)、JFAハウスおよびWeb会議システムで開催されました。
詳細については、JFA公式Webサイトをご参照ください。

決議事項

評議員5名の選任

評議員5名の交代が承認されました。各組織での人事などに伴うもので、任期の満了前に退任した評議員に代わって選任する評議員の任期は、退任する評議員の任期満了の時までとなるため、2027年3月に予定している定時評議員会の終結の時までとなります。

現役会長の信任決議

会長を継続する意思を表明した宮本恒靖会長の信任決議がオンライン投票システムを使って行われ、次期会長予定者として過半数の票を獲得し、信任されました。新たな任期は現在の任期が終わる来年3月から2028年3月の2年となります。来年3月に開催される定時評議員会で理事に選任された上で、新理事で構成される理事会の互選をもって正式に会長に就任します。

Information

ビーチサッカー日本代表が沖縄で街頭クリーン活動

ビーチサッカー日本代表は10月4日と5日の国際親善試合に先立ち、株式会社みずほフィナンシャルグループの協力のもと、同2日に那覇市のみずほ銀行那覇支店周辺にて街のクリーン活動と試合の告知活動を行います。ビーチサッカーは砂浜が主なトレーニングや試合の場所となるため、ビーチサッカー日本代表は活動の際、継続的にビーチクリーン活動を行っています。※9/22発表

JFAユニクロサッカーキッズをタイで初開催

JFAと株式会社ユニクロは11月8日、タイのバンコクで未就学児を対象としたサッカーイベント「JFAユニクロサッカーキッズ」を開催します。
JFAユニクロサッカーキッズは2003年から継続的に実施しており、22年間で延べ31万人を超える子どもたちにスポーツを楽しむ機会を提供してきました。海外ではこれまでシンガポール、ドイツ、フランス、ベトナムで実施。今回は日本からユニクロサッカーキッズキャプテンの内田篤人さんが、タイからは元タイ代表選手のKawin Thamsatchananさん、Teeratep Winothaiさんがゲストとして参加します。※9/26発表

SAMURAI BLUEに贈りたい『漢字一字と応援メッセージ』を募集

公益財団法人日本漢字能力検定協会とともに2025年6月から実施しているコラボレーション企画「全力蹴球プロジェクト」。その第3弾となる「今、あなたに贈りたい漢字コンテスト『SAMURAI BLUEを応援しようキャンペーン!』」を

9月30日より実施します。本コンテストは、普段言えない素直な気持ちを込めた漢字一字を募集し表彰するもので、その特別版として、FIFAワールドカップ26に臨むSAMURAI BLUEへの想いを込めた「漢字一字と応援メッセージ」を11月30日まで募集。宮本恒靖会長、森保一監督、漢検協会理事長の山崎信夫氏が審査員を務め、「最高の景色を」大賞など、4つの賞で合計13作品を表彰します。※9/29発表

「JFA夢フィールドデー」を初開催

JFAは10月11日、高円宮記念JFA夢フィールドで「JFA夢フィールドデー」を開催します。これはサッカーファミリーの皆さんにJFA夢フィールドを舞台にさまざまな角度からサッカーを楽しんでいただくイベントで、初開催となる今回は、SAMURAI BLUEのコンディショニング調整を見学できるほか、「JFAフットボール大学」の特別講座として、「世界をめざす小中学生のための語学講座」を開講。そのほか、ビーチサッカー日本代表の茂伶羅オズ選手が参加するビーチサッカー体験や審判ブースでのオフサイドクイズの実施など多彩なイベントを予定しています。※10/2発表

影山雅永技術委員長を契約解除

JFAは10月7日の理事会において、影山雅永技術委員長と契約を解除し、技術委員長職の解任を決議しました。海外出張時の行為に対して有罪判決が出されたことを受けてのものです。※10/7発表

その他の主なニュース

- ・「JFA×文京 Dream Project」第5弾「街のオフィスの交流フェス」を小石川運動場にて開催(9/24発表)
- ・「ZOJIRUSHIユメセンサーキット2025」第4回「夢の教室」実施のお知らせ(10/2・3@静岡県静岡市) ~JFAこころのプロジェクト~(9/25発表)
- ・JFAクラウドファンディング 世界を目指す次代の審判員を育成「JFAユース審判員海外遠征プロジェクト ~アジアチャレンジツアー~」を実施(9/26発表)
- ・「育成年代応援プロジェクト JFA アディダス DREAM ROAD」FCバイエルンユースカップU16に10選手が出場(10/1発表)
- ・JFAクラウドファンディング 「なでしこジャパン、再び世界へ!日本の未来を輝かせる選手たちを応援しよう」第2弾を実施(10/2発表)



動画も公開中!

JFA シニアサッカーアンバサダー

金田喜稔さんを マンマーク!

第15回は日本代表として58キャップを誇り、現在はJFAシニアサッカーアンバサダーとしても活躍する金田喜稔さん。
JFAが「重点3領域」の一つに置くシニアサッカーの広がり、その未来について宮本恒靖会長と語り合います。

蹴って、語って、広がるシニアの輪

宮本 人生100年時代の中、「生涯スポーツ」としてシニアサッカーの普及と発展を目的に、金田さんが初代のJFAシニアサッカーアンバサダーに就任されたのは2021年9月でした。

金田 元々横浜でシニアを対象としたサッカークリニックをやっていて、シニアサッカーには可能性があるなっていうのはずっと感じていた。そんなときに同期の田嶋幸三(当時JFA会長)から「キンタ、アンバサダーの役職をつくるから一緒にやってくれないか」と声を掛けてもらって、そこからですね。

宮本 早い段階からシニアに可能性があると感じられていたんですね。

金田 クリニックで全国を回るようになると、30代以上の方がわざわざ参加費を払って「うまくなりたい」という思いでサッカーをやっているんだよね。月曜日から金曜日まで働いて、週末の余暇を使って一生懸命にボールを蹴っていて。60代、70代もいてちょっと衝撃的だったのよ。こういう人が全国には多分、いっぱいいるんだろうなと感じてはいたのよ。

宮本 僕も47FA訪問会議で全国を回らせてもらいましたが、シニアの登録数はどの地域でも上昇していました。昨年、秋田で行われた全日本O-60、O-70サッカー大会を見ましたが、70代の方も非常にお元気で、健康増進という意味においても(シニアサッカーに)ポテンシャルがすごくあるなと感じましたね。競技者として真剣にやって全国を目指す人もいれば、そこまでガチンコではなく楽しむことが主になっている人も当然います。両方で充実させていく必要があるのかなと感じました。

金田 真剣にやっている人たちのことと言えば、やっぱり皆さん日の丸をつけてプレーすることに憧れてきたわけですよ。でもプロでやれる人はほんのひと握り。途中でサッカーから離れた人の受け皿になっているのがシニアカテゴリー。まだまだ潜在的にそういった人がいるだろうし、皆さんがこぞって参加できるような仕組みを宮本会長にはぜひ考えてほしいね。そしてもう一つ、健康増進を目的にした層とか。サッカーをひととき楽しんだら、みんなでメシでも食おうや、ってなる。そこで日本代表の試合やJリーグ、WEリーグの試合が流れていれば見るし、サッカーを語り合うわけよ。そこでさらに交流が深まって、大阪の人が長野に行ったりとか、その逆もあったりとか、コミュニティーの広がりが出てくる。そういうことを参加者の皆さんに学ばせてもらっている。

宮本 「サッカーを語る」というワードはいいなって思いますね。別にウォーキングフットボールでもいいですね。みんなで集まってボールを蹴るだけじゃなくて、集まって語り合うことも健康増進に間違いなく寄与すると思うんです。僕

も50代に近づいています。ゴルフをすることもありますけど、やっぱりサッカーだとたくさんの人で集まれるという良さがありますよね。

金田 あとは女性の盛り上がりもすごいですよ。今年3月にJヴィレッジでO-40の大会を見に行ったけど500から600人くらいは集まったんじゃないかな。女子の大会もこれからしっかり整備していったほうがいい。やっぱり女性が子どもを産んで、一緒に育ててくれるわけだから女性を巻き込んでいかないと子どもにサッカーさせないじゃ。それに地域で大人のおじさん、おばさんがユニフォームを着てサッカーをやっている姿を子どもたちが見ておけば、自分たちもシニア世代になったときに思い出すんじゃないかな。われわれはシニアサッカーに取り組んでいるようで、実はジュニア世代にもタッチしているわけよ。そういう縦軸をつくっておけば、サッカーに戻ってきやすいと思うんだよ。

宮本 子どもたちに対する視点は大事だと思いますね。金田さんが言うところまでちゃんとイメージして特にエンジョイのところを目指しているかと言われたら残念ながらそうじゃない。本当に貴重な意見です。シニアサッカーを広げていく上で何かほかに強く伝えたいことはありますか。

金田 子どもたちに発信しているのはフェアプレーの概念がすごく大切だということ。ルールを守ってレフェリーのジャッジに文句を言わない、そして一番大きいのは相手にケガをさせない。これシニアでもそうなのよ。大ケガになってしまったりシニアでは治るのに時間も掛かってしまうし、ひょっとしたら治らないかもしれない。その人の人生を奪いかねないのよ。シニアでは「相手にケガをさせない」ということをもっと発信していかなきゃいけないとは思っています。

宮本 最近、金田さんに直接話を聞くことができていなかったのですが、今日いろいろとシニアサッカーの現状を教えていただいて本当に良かったです。シニアサッカーのポテンシャル、広がりというものがあるために見えた思いがしますし、しっかりとアップデートしていきたいと思います。ぜひこれからも力をお貸しください。

金田 ツネ、期待しているよ!

金田喜稔(かねだ・のぶとし)

1958(昭和33)年2月16日生まれ。広島県出身。
中央大学在学中に日本代表入りし、1977年の日韓定期戦で代表初ゴール。19歳119日での得点は日本代表最年少記録。80年より日産自動車サッカー部(現・横浜F・マリノス)に所属、88年には国内7冠に貢献。国際Aマッチ58試合出場。引退後は解説者として活躍するほか、全国でサッカー教室を開催。2010年より日本サッカー名蹴会会長。21年よりJFAシニアサッカーアンバサダー。

※次号は2025年12月発行予定/本誌クレジット表記のない写真: ©JFA、©JFA/PR、©Jリーグ、©WEリーグ

